

野菜花き 6月下旬巡回調査結果の概要について

【東北信】 巡回日 6月22日、23日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地）は着果中であつた。新葉にオオタバコガの産卵がみられたほか（図1）、アブラムシ類（有翅虫）の着生がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫終盤であつた。うどんこ病は、前回調査時よりさらに拡大し、ほぼすべての株で発病がみられた。輪紋病の発病株も増加していた。また、オンシツコナジラミの寄生がわずかにみられた。



図1 トマトの葉に産付されたオオタバコガの卵

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は収穫終了。新たな調査ほ場（施設・通常期栽培）は、着果中（収穫前）であつた。

花にアザミウマ類の寄生がみられたが、少発生であつた。病害の発生はみられなかった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は収穫始期であつた。アザミウマ類が花に多く集まり（図2）、寄生株率が平年と比べ高かつた。アブラムシ類（有翅虫）、オンシツコナジラミの寄生がわずかにみられた（図3）。病害の発生はみられなかった。



図2 きゅうりの花に集まるアザミウマ類（中野市）



図3 きゅうりの葉に寄生するオンシツコナジラミ（中野市）

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であつた。前回調査でみられた炭疽病は防除により抑制されていた。害虫の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市及び軽井沢町の巡回ほ場は収穫期、南牧村の巡回ほ場は結球期、長野市の巡回ほ場は結球始期であつた。いずれのほ場においてもタマナギンウワバが寄生し（少～中発生）、卵及び各齢期の幼虫がみられ、発生は継続的であつた（図4）。病害の発生はみられなかった。



図4 キャベツを食害するタマナギンウワバ若齢幼虫（長野市）

5 ブロッコリー

御代田町の巡回ほ場は、前作が終了し、次作が定植直後であつた。病害虫の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は収穫期であつた。病害では、黒腐病の発生（少発生）がみられたほか（図5）、害虫では、タマナギンウワバ（少発生）の寄生がみられた。



図5 ブロッコリーの黒腐病（南牧村）

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、定植前であつた。

小諸市の巡回ほ場は、収穫が終了していた。

小海町、南牧村の巡回ほ場は、前作が終了し、次作がいずれも生育初期（5～6葉期）であつた。いずれも病害虫の発生はみられなかった。

7 レタス

上田市、御代田町、南牧村の巡回ほ場は、前作が終了し、次作がいずれも定植直後であった。いずれも病害虫の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、次作が生育期（6葉期）であった。病害虫の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、作付けが終了していた。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎中であった。アザミウマ類の寄生がみられたが、少発生であった。病害の発生はみられなかった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎中であった。前回調査でみられた茎枯病は、防除により病勢の進展は抑制されていた。アザミウマ類の寄生がみられたが、少発生であった。

9 たまねぎ

長野市の巡回ほ場は、収穫済みであった。

10 ながいも

長野市の巡回ほ場のながいもは、萌芽始めであった。

病害虫の発生はみられなかった。

11 ばれいしょ

小諸市の巡回ほ場は、生育中であった。アブラムシ類の寄生がみられたが、防除が実施され、少発生であった。

病害では、夏疫病の発生がみられた（図6）。



図6 ばれいしょの夏疫病（小諸市）

12 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、生育期（草丈 60 cm程度）であった。

アザミウマ類の寄生（少発生）により、葉に食害痕がわずかにみられた（図7）。病害の発生はみられなかった。



図7 アザミウマ類によるきくの葉の食害痕（佐久穂町）

【中南信】 巡回日 6月22日、23日、24日、25日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。葉および果実に灰色かび病（少発生）の発生がみられたほか、花にアザミウマ類の寄生がみられた。

伊那市及び安曇野市の巡回ほ場（露地栽培）は、いずれも着果中であった。病害虫の発生はみられなかった。

2 きゅうり

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。うどんこ病（多発生）は、さらに発生範囲が拡大し、ほぼすべての株に病斑がみられた。虫害では、花および葉にアザミウマ類（中発生）、葉にアブラムシ類（中発生）の寄生がみられ、いずれも前回調査より密度が増加していた。

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。花に寄生しているアザミウマ類（中発生）は、前回よりさらに増加傾向であった。

3 すいか

飯島町の巡回ほ場は、着果中（トンネル被覆）であった。病害虫の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場は、着果中（トンネル被覆除去）であった。病害虫の発生はみられなかった。

4 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、生育期（6～7葉期、収穫終了によりほ場変更）であった。病虫害の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、結球期（収穫終了によりほ場変更）であった。病虫害の発生はみられなかった。

茅野市の巡回ほ場は、生育期（9～10葉期）であった。葉にウワバ類（少発生）の寄生がみられた。

5 ブロッコリー

伊那市の巡回ほ場は、生育期（9～10葉期）であった。ウワバ類（中発生）による葉の食害が多くみられた（図8）。



図8 ブロッコリーのウワバ類（伊那市）

6 はくさい

朝日村の巡回ほ場は、収穫が終了していた。

木祖村の巡回ほ場は、収穫前であった。病虫害の発生はみられなかった。

7 レタス

塩尻市及び朝日村の巡回ほ場は、定植直後（収穫終了によりほ場変更）であった。いずれも病虫害の発生はみられなかった。

8 セルリー

原村の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫前であった。病虫害の発生はみられなかった。

9 アスパラガス

豊丘村の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎中であつた。擬葉にアザミウマ類及びアブラムシ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。

飯島町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は立茎中であつた。擬葉にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられた。

松川村の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎中であつた。擬葉にアザミウマ類（中発生）の寄生がみられた。

10 たまねぎ

安曇野市の巡回ほ場は、収穫が終了していた。

11 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉 6.0～7.0 葉であつた。葉に黒斑病及びさび病（いずれも）の発生がみられた（図9）。虫害では、葉にアザミウマ類（中発生）及びネギハモグリバエ幼虫（多発生）の寄生がみられ、特にネギハモグリバエ幼虫による食害が目立ち、葉全体が白化しているものも散見された。

山形村の巡回ほ場は、本葉 5.0～6.0 葉であつた。葉にアザミウマ類（多発生）及びネギハモグリバエ幼虫の寄生（中発生）がみられた。特にアザミウマ類による食害が目立ち、全ての株で被害がみられた。病害の発生はみられなかった。



図9 ネギさび病（南箕輪村）

12 きく

富士見町の巡回ほ場は、定植直後であつた。病虫害の発生はみられなかった。